

メール Merの5文字!

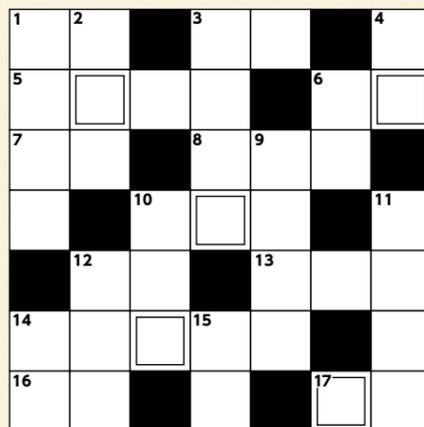
Crossword Puzzle クロスワードパズル

正解者から抽選で5人にクオカード(2000円分)を差し上げます。

□のマス目に「答え」が隠れています。パズルに言葉をあてはめ、□□□□□の5文字を並び替えてください。タテ・ヨコのカギには、今号の特集記事にまつわる言葉もあります。ぜひ、チャレンジしてみてください!

二重マスを並び替えてできる言葉

□ □ □ □ □



タテのカギ

- 1 「仲人」の読み方は?
- 2 税金や商品などを納める時期。
- 3 ○○○○レンジャー(8ページ)。
- 4 平和の象徴とされる鳥。
- 6 刀を収め保護する筒。
- 9 太陽系で太陽から3番目に近い惑星アリス。
- 10 利益を上げるように図る。
- 11 ○○○○目的の販売。
- 12 くだ。ホース。
- 13 カメやカニなどの体をおおっている堅い殻。
- 14 輪○○。消し○○。○○手袋。
- 15 「百合」の読み方は?

ヨコのカギ

- 1 10億分の1を表す単位。○○テクノロジー。
- 3 裁縫で使う針と○○。
- 5 ⇄軟式。
- 6 故郷。田舎。出身地。
- 7 釣り糸の途中につける目印。
- 8 ことわざ「餅は○○○」。
- 10 モヤシのように栽培された白く細長いキノコ。
- 12 滝を登りきると龍になるといわれた魚。
- 13 端午の節句は菖蒲湯、冬至は○○○。
- 14 さんせん○○○○○(2ページ)。
- 16 色に濃淡があり様でない様子。まだら。
- 17 ラクダの背中にある。

パズルの応募方法

EメールまたはFAXで、①パズルの解答「□□□□□」②住所・名前・電話番号③本誌を受け取った場所④今号で印象に残った記事⑤Merへのご感想を記入し、右記宛先へ。送信は1人1回のみ(複数応募は無効)とさせていただきます。

宛先

メール: koueki@uitech.jp
FAX: 06-4963-2087
締め切り/6月30日(木)。

※前号の答え= **みずぶそく** でした。多数のご応募をありがとうございました。

Merとは

「Mer(メール)」とはフランス語で「海」を意味する言葉。命を育んだ海と、メッセージを伝える「メール(Mail)」の音を重ねています。本誌は、大阪府内を中心とした下水道情報を織り交ぜながら、水そのものや水環境、都市環境、水にかかる生産活動などに関する幅広い分野の情報を掲載しています。この冊子を通じて、これから水という大切で身近な存在を通して、私たちの暮らしと未来について考えていきます。

バックナンバーはホームページに掲載しています。

人と地球のうらおい
マガジン・メール
2022年3月号

発行 一般財団法人 都市技術センター
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2丁目2番5-206号 船場センタービル5号館2階
TEL 06-4963-2056 <http://www.uitech.jp/>

人と地球のうらおいマガジン

FREE
magazine

Mer

[メール]

vol.32
2022
March

清流紀行 P02

「三川合流地点」(京都府八幡市)

ガイアの瞳 P04

「湿地にワイズユースという観点を
~ For SDGs ~」

すいじんのまじかり
水人之交 P08

「学生たちが作る“超地域密着”の
生きものミュージアム」(大阪府)

大阪府内の下水道情報 P12

センターだより P14

クロスワードパズル P16

三川合流地点
左から桂川、宇治川、木津川

清流紀行

三川合流地点 (京都府八幡市)

3本の河川が淀川に姿を変える

天下分け目の 天王山のふもと

山城と摂津の国境が スタート地点

河川が交わる地点は数あれど、三つの大河川が合流する地形は全国的にもまれなもの。珍しい三川合流地点が見られるのは大阪府との府境に位置する京都府八幡市です。琵琶湖を水源とする瀬田川が名前を変え、歴史ある宇治の街を抜けて流れる宇治川。伊賀青山から京都府南部の水を集める木津川。南丹市美山町から保津川を下って京都盆地南側を流れる桂川。この三川が八幡



■交通アクセス(背割堤まで)
 ・京阪本線石清水八幡宮駅から徒歩約20分
 ・JR京都線山崎駅、阪急京都線大山崎駅から徒歩約1時間
 駐車場:22台(さくらであい館)、156台(背割堤) ※いずれも無料。2022年は3月26日~4月5日はさくらまつりのため駐車場閉鎖



関西でも屈指の人気を誇る背割堤の桜



日本の名水百選に選ばれた「離宮の水」が湧く水無瀬神宮

市で合流して淀川となり、関西を一刀両断するように大阪湾に注ぎます(合流地点遠景は表紙を参照)。

JR京都線山崎駅、または阪急京都線大山崎駅から三川合流地点へ巡る旅を始めましょう。駅の北側にそびえるのが、豊臣秀吉と明智光秀が天下を争った天王山。ふもとには旧西国街道が通り、山崎駅の西側に山城国と摂津国の境界線が位置しており、現在も京都と大阪の府境になっています。大阪府側にある水無瀬川緑地公園を抜け、水無瀬川を横断すると、湧き水でその名が知られる水無瀬神宮が見えてきます。

新幹線の高架をくぐると、水無瀬川は



展望塔が目印のさくらであい館



木津川(左)と宇治川(右)が背割堤を挟んで並走。さくらであい館展望塔から



ここで桂川と宇治川が合流し、淀川に。淀川河川公園島本地区からの眺め



背割堤から眺める木津川。堤の突端が合流地点

桂川に合流します。川の対岸に見えるのが、石清水八幡宮がある男山です。天王山と男山に挟まれた山崎付近は狭小な湿原地帯で、3本の川が合流することもあり、古くから大阪と京都を結ぶ交通の要衝となっていました。かつては西国街道や京街道が通り、現在もJR在来線、新幹線、阪急、京阪と四つの鉄道路線が並走しており、当地の重要性がうかがえます。水無瀬川と桂川の合流地点には、「山崎の渡し」跡地を示した碑が残されています。昭和中期まで渡し舟が往来し、二つの街道を結ぶ重要な中継点でした。



まるで桜のトンネルのように花が咲き誇ります

川敷の遊歩道を歩いていきましょう。途中小道に入り川岸まで出ると、桂川と宇治川の合流地点。やや北で木津川と宇治川の合流地点も確認できます。3本の河川がここで交わり、大阪湾まで流れていくのです。川幅が広がり、ゆるやかながら力強い流れが生み出されます。

宇治川と木津川の合流地点を詳しく見られるのは東岸で、桂川に掛かる天王山大橋を渡り、宇治川・木津川を横断する御幸橋へ。宇治川と木津川を隔てる背割堤にはさくらであい館が建てられています。展望塔に上がれば、木津川が宇治川と交わる地点が見られます。東岸にはかつて遊郭などで栄えた橋本の町並みが。

背割堤は桜並木が堤の端まで続いています。遊歩道の右手に宇治川、左手に木津川を眺めながら歩くと、突端付近の

木津川西岸に「三川合流点から0.0km」の道しるべが見つかります。さらに進むと宇治川の岸に同様の道しるべが。道しるべの地点がそれぞれの川の終点=淀川の起点です。春には咲きほこる桜を楽しみながら、並走し合流する三川に思いをはせてみるのも一興です。



立ち寄り“水”SPOT

あえて橋板を流してしまおう、 日本最大級の本橋 流れ橋(上津屋橋)

三川合流地点から木津川を5キロメートルほど上った先に掛かっているのが流れ橋。欄干がなく、橋脚の上に橋桁を渡しただけの素朴な姿は、時代劇の撮影でよく使用され、目にした人も多はず。増水時にあえて流されるように設計されており、昭和28年(1953年)の架橋以来、23回も流されていますが、その度に復旧してきた歴史があります。

いよいよ合流地点へ!

南下して、淀川河川公園へ。桂川河



背割堤に置かれた道しるべ

コウノトリの「野生復帰」をキーワードに地域が連携

かつては、日本中で見られたコウノトリですが、1971年に日本では絶滅。最後の生息地だった豊岡市では繁殖と放鳥によって、10数組のつがい野外で子育てできるようになりました(全国での個体数は約280羽)。ラムサール条約には円山川下流域・周辺水田が登録され、コウノトリの野生復帰事業を中心とした湿地保全活動が地域を上げて行われています。

豊岡市で行われている湿地保全・コウノトリの保護活動について日本コウノトリの会代表の佐竹節夫さんに伺いました。



ハチゴロウが教えてくれた 地域で守る湿地

日本コウノトリの会 代表
佐竹節夫さん



●コウノトリと豊岡のつながり

豊岡でのコウノトリ保護の歴史は明治時代までさかのぼります。瑞鳥、つまり縁起の良い鳥として愛されていたコウノトリが生息していた豊岡には、日露戦争の勝利の際に「ツル」見物のために多くの観光客が訪れ、鶴見茶屋がおおにぎわい。観光資源としてコウノトリを守ろうと狩猟制限などの保護活動が始まります。

戦後、湿地の開発や農業の使用などによりコウノトリは数を減らしていきました。昭和40年代になって、人工飼育がスタートするのですが、繁殖が成功する前に野生個体は絶滅。ロシアからコウノトリを導入し

てようやく1989年に繁殖が成功しました。その後は毎年ヒナが生まれ、飼育下での個体数が着実に増えていき、2002年には100羽を越えました。

野生復帰には放鳥が必要ですが、自然環境が変わっていなければ、コウノトリがかつてのように死んでしまうのは目に見えており、コウノトリのための環境づくりが求められていました。また地元の、特に農家の方の理解を得る必要もありました。コウノトリは田畑を踏み荒らす害鳥だと考えられており、放鳥による農作物被害への懸念が強かったんです。

放鳥に向けての動きが進まない中で、事態を大きく変えたのは1羽のコウノトリでした。



翼を広げると2メートルにも達するコウノトリは人里近くに暮らし、主に田んぼや小川などの浅瀬でカエルや小魚、昆虫を食べます

●コウノトリと人が暮らしやすい街に

2002年8月5日、大陸から渡ってきた1羽のコウノトリが湿地に舞い降りました。降り立った日からハチゴロウと名付けられたその個体は円山川周辺を転々としながら定着。当時の盛り上がりはすごかったですよ。学校ではコウノトリが飛んでいると授業を中断して、観察会に切り替えるほど。放鳥に消極的だった皆さんも、悠々と気ままに過ごすハチゴロウの姿に心を動かされて、具体的な協議が進み2005年から放鳥が始まりました。さらにハチゴロウが降り立った湿地を豊岡市が買い上げて、県と市によりコウノトリが暮らしやすい湿地へと整備し、「ハチゴロウの戸島湿地」と名付けました。

コウノトリに優しい環境づくりを、農家の皆さんを始め、地元の皆さんが自発的に始めてくれました。代表的な例が、「コウノトリ育む農法」によるコメ作り。無農薬や減農薬による栽培や冬でも水を張る冬季湛水、エサとなるカエルの生育を助ける中干し時期を延期する水管理などで、米とコウノトリの餌場を同時に育む農法です。さらに休耕地や耕作放棄地となった水田を湿地として再生・活用する取り組みもあります。また、小学校の授業の一環で子どもたちが湿地の整備活動に参加しています。

コウノトリの野生復帰を目指して活動を続けた結果、地域に大きなプラスがありました。先ほどのコウノトリ育む農法で育てたコメはブランドになり、農家の売り上げが伸びました。さらにコウノトリが住む街豊岡として、観光客を呼び込む資源の一つになっています。コウノトリが暮らしやすい環境は人間にとっても価値がある。あの日、どこからかやってきたハチゴロウがたくさんのことをわれわれに教えてくれたのです。

豊岡市では官民一体の湿地環境の整備や、小中学校での湿地を利用した環境学習、市民によるコウノトリの目撃情報を集約するHP「コウノトリ市民科学」の設置など、コウノトリの保護を目的として、地域全体が多様な形で湿地と関わりを持っています。守るだけでなく、湿地を学び、つながるワイズユースの理想的な形ではないでしょうか。



ハチゴロウが降り立った湿地は「豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地」として、コウノトリの営巣・観察拠点として整備されました



ハチゴロウの戸島湿地には観察拠点があり、コウノトリを間近で目撃できるスポットになっています



近隣の小学生が湿地に入り、草刈りや生きもの観察を行う環境学習が実施されています

水人交

すいじんの
まじわり

学生たちが作る
“超地域密着”の
生きもの
ミュージアム

流域を広く動き回ろう!

河内長野市滝畑の南西に発し、金剛山地の西側と丘陵地の水を集めて北へ流れる石川。富田林市で千早川、羽曳野市で梅川が合流し、飛鳥川などと出会って大和川に注いでいます。森林地帯から住宅地まで、砂岩、れき岩、花こう岩を含む変化に富んだ環境に、多様な生き物が暮らしています。

石川って?

石川は金剛山系と泉北の丘陵地に挟まれ、南河内を南北に貫く一級河川。全長29キロメートル、流域面積は223平方キロメートルと南大阪で最大規模。流域とは、雨が降るとどの川に水が集まるかで区分したもの。



石川流域の生き物レンジャーたち

(大阪府)

大阪府南東部で、美しい水をたたえ多様な生態系を織りなす石川。河内長野の上流から大和川へ注ぐ下流まで、石川流域の魅力をめいっぱい満喫し、それを手作りのメディアで伝える若者たちがいます。「川の生き物って面白い!」「自然の素晴らしさを伝えたい」。WEBサイトやYouTubeでいつでもその熱意あふれる活動にふれることができます。

「川に入るのって楽しい!」「生き物のことをもっと知りたい!」そんな思いを抱いた子どもたちが、その興味や好奇心を絶やさず成長していくように――。南河内水生生物研究会と石川を取り巻く市民NPOらが連携し、「雨ふる大地の水辺保全ネットワーク」を結成。各NPOに属する中学～大学生が地域の枠を超えて集まるグループが「TOKOTOKO」です。「あちこちにトコトコ動き回れるように」と、広範囲で活動できる体制を整えています。2014年にスタートし、現在は約50人がフィールドワークのガイド役や生物調査で活躍中。さらに意欲のある精鋭は「TOKOTOKOプロ」として知識や経験を積み、より深い調査や生き物レンジャーとしての発信を行っています。



フィールドワークでそれぞれの知識や感性で生き物の魅力を伝えるTOKOTOKOプロ。参加者の安全を守るのも大きな役割

“超ローカル”な情報から世界が広がる

同ネットワークが運営するホームページ『石川流域生きものミュージアム』は、生き物図鑑やYouTubeなどのコンテンツでにぎわっています。図鑑には石川で確認した1000種以上の生き物がズラリ。調査で集めた魚、鳥、昆虫などの写真や動画が掲載されています。種によって掲載内容に差があるのは、メンバーがリアルにキャッチした情報だから。「自由度の高いWEB媒体に、自ら得た情報を工夫して伝えています」。スタッフの升方拓郎さんによると、学生が「この角度が美しい」と選ぶこだわりの写真や、学生が描いたイラストなども見どころだとか。研究会やNPOメンバーが撮りためた野鳥や水中写真もここに



図鑑にアクセスすると、さまざまな写真や動画で生き物の特徴が分かる。写真は生きたままの美しい姿を中心に、形や動きが分かるショットが工夫されている

川の中から動画でリアルレポート

もう一つのメインコンテンツがYouTubeの『いきものちゃんねる』。毎週生きものレンジャーが川に入る様子や自然の中で遊ぶヒントを配信しています。魚釣りや生態系調査など、石川のあらゆるスポットでの活動を撮影。動画の中ではたも網で行う“ガサガサ”のコツを視聴者にレクチャー。草の陰で網を構え、上流側に足を突っ込んでガサガサと動かし、逃げ込む魚をキャッチする。動画では高校生が解説しながら砂地に網を入れ、短時間でモツゴやドンコ、



大和川と合流する地点では、巨大な雷魚「カムルチー」も発見! 企画は学生たちで案や意見を出し合い、撮影や編集は大人たちが行う

収められ、石川ならではの純度の高い図鑑になっています。活動の中で新たに得た情報も追加されるので、次に訪れる時にはさらに内容が充実しているかもしれません。

「近所の川で泳いでいたあの魚は何?」といった疑問から答えを導くには、全国版の図鑑よりローカル版のほうが便利。さらに「こんな魚もいるんだ」と横並びに興味湧けば、また川をのぞこうという気持ちにもつながります。足元にある自然から、横へ、斜めへ、大自然へと興味を広げてほしいと、「小学校の周辺で見られる生き物」「梅雨時の生き物」などの索引法も模索しています。



カワムツなどを採取。網にかかった魚を見るなり「モツゴは口がとがっているのが特徴。繁殖期は体に線が出てタモロコと見分けがつきにくくなる」と知識を総動員して伝えます。

場所によって、生き物の生態はガラリと変わります。「大自然の中だけでなく、住宅地の水路などでもさまざまな発見がある」と升方さん。「大きな生物ほど臆病に生きています。安全面から子どもたちが行きづらい夜の川は大人がレポートしているので、ぜひ動画で見てみてください」。



TOKOTOKOプロが『いきものちゃんねる』を見ながらガヤガヤトーク

うめ 石川は川に入りやすいスポットがたくさんあるよね。動画撮影で奥深い場所に行くと、同じ石川でも全く違う生き物に出会えて楽しい。



やなぎもと ウナギ捕りが得意で、撮影にもチャレンジしているけどなぜか釣れない。自然が相手なので仕方ないよね。収穫なしでもありのまま配信しています(笑)。

いお 調査は、捕れた生き物をしっかりカウントして、データにしなければならぬので緊張する。でも、大きい魚が捕れると単純にうれしい！カムルチーが捕れた時は撮影そっこのけで喜んだなあ(※石川河川公園で展示中)。

うめ 僕は練習して投網を使えるようになって活動の楽しみがガラッと変わった。投網は漁業権がない石川だからこそできることだしね。



いお 川に入りたいと思ったら、複数人で支流の小川など安全な場所で。長靴と網、バケツや虫かごを持って生き物を探ってみましょう。

やなぎもと 捕れた物をじっくり観察して、こんなきれいな生き物がいるんだと実感してほしいです！



自然はいつでもそこにある

2020年から進めていたWEBコンテンツの拡充が、コロナ禍で結果的に加速することに。また、活動拠点でもある石川河川公園や流域の各所には、生き物図鑑への二次元コードを掲示するなど、「対面はせずとも自然の中で伝えられる機会」を増やしています。

「どんな状況下でも自然はそこにあり、私たちを含め多様な生き物を育てています。フィールドワークが活動の原点ですが、身近な自然に目を向ける機会をさまざまな形で生み出せたら」。若者たちの好

きなことに打ち込むパワーや、自由に未来を描く力を信じて、背中を押す——。これからも TOKOTOKO の活動が多くの人々の視野を広げ、川や自然へと誘ってくれるでしょう。



公園の看板に池にすむ昆虫の紹介と、生き物図鑑への二次元コードが掲示されている

interview

好きな気持ちを伸ばせる場に

南河内水生生物研究会 升方拓郎さん



地域で行う川のごみ拾いや生き物観察会に参加するのは、小学生ぐらいまでの子どもたち。しかし中学生になれば部活動などで忙しくなり自然から離れてしまいます。「生き物が好き」という気持ちが芽生えても、その受け皿や活動するフィールドがなかったのです。私自身も大学で生物研究の道に進むまでは、家の中で少し魚を飼うぐらいで、熱意を発揮できなかった経験があります。さらに大学で川の調査をするにも地域や自治体の力を得ねばならず、活動の壁を痛感することが多々あって。そこをサポートしたいと考えました。

子どもの「好き」という気持ちを中高生の時期へとつなげていくと、どんどん熱意が膨らみ、やりたいことや夢が見つかっていく。時に大人の発想を超えてマニアックだったり、自由だったり。石川をフィールドに、こんなにすごいことができる、世界が広がるんだということを体現したかったのです。

活動拠点をづくり、安全性や装備、道具などを整える仕組みづくりが私たちの役目です。これまでの活動で種をまいてきたことが、YouTubeなどのコンテンツとなって育ってきました。中高生で、こんなに生き物に特化した活動をしている子たちはいませんよ。リアルに学生たちが喜んで楽しんでいる様子を、ぜひ見てみてください。

TOKOTOKOプロに聞きました！

※()内は動画出演時のニックネーム

観察会は楽しく、安全に 「1人も1人にしない」を心掛けています！



狐坂音奏さん(いお)・高2

小学3年生の時に生き物観察会に参加して、「大きくなったら手伝いたい」と思うように。その頃から図鑑で知識を蓄えていましたが、石川にいる生き物にもっと詳しくなろうと勉強しています。自然と触れ合う機会の少ない子どもたちに、生物の色や形の解説だけでなく「面白い」と思ってもらえることをたくさん伝えたいと思います。調理師を目指していて、投網でアユを捕って料理することもあります！魚をさばいたりおいしく調理するという観点でも、川の魅力を深掘りしていきたいです。

梅川翔平さん(うめ)・高2

こうして活動するまではあまり自然になじみはなく、昆虫は苦手でした。今もちょっとダメ(笑)。中学校のクラブ活動で TOKOTOKOに参加したのをきっかけに、魚に興味が増えました。調べた魚に実際フィールドで出会えると楽しい！お気に入りの魚はカマツカ。シュツとした形と色がきれいなんです。「これが好き」というものがあれば、そこから興味が広がります。観察会で「この魚いいなあ」と思えたら入り口が開くと思うので、声をかけて全員が生き物と触れ合えることを目指しています！



柳本春樹さん(やなぎもと)・社会人

1人で川に入っていたところ、TOKOTOKOスタッフに声をかけてもらい、8年一緒に活動をしています。相当な人見知りだったのですが、活動をしていく中で気づいたことが。「自然の中に身を置いて、自然の魅力を伝える」ことが自信をくれる。ここが居場所だと思いました。チームで活動していると、1人でできることは限られている、みんなが川や生物の環境を守るんだと感じます。同じ気持ちを持つメンバーが、さまざまな形で自然の楽しさや大切さを伝えていけたらと思います。



楽しく安全に川で遊ぶために

子どもは浅瀬でも溺れる危険性があるので、観察会では安全性に十分配慮しています。川底で滑ったり、びっくりして起き上がれないということもあります。そういう経験をせずに楽しく過ごせるようにしっかりサポートをしています！

※ホームページでライフジャケットの着け方、入水時の注意点や、服装、魚の捕り方を動画やイラストで解説しています。

▶川に入る時は体の大きさに合うライフジャケットを着けて、どんな小さな川でも一歩目は必ず慎重に！たも網を杖のようにして、水深と川底の地形や状態を確認して進むことを習慣付けましょう。膝より深い場所や川底の泥が深いととても危険です。子どもは必ず大人と一緒に掛けてください。



石川流域生きものミュージアム・雨ふる大地の水辺保全ネットワーク 【公式サイト】

<https://9351669103.amebaownd.com/>

石川流域生きものミュージアム

検索

【問い合わせ】メール sk.suisei@gmail.com



「大阪市下水道科学館」の リニューアルオープンについて



平成30年3月より一時休館していた「大阪市下水道科学館」が令和4年4月1日（金）にリニューアルオープンします。

新たな下水道科学館は、「学習・研修」に加え「技術開発」と「海外展開」の「3つの機能」を持つ下水道に関する情報発信拠点として生まれ変わります。

新たな科学館で実施する「3つの機能」

①学習・研修

小学4年生をメインターゲットにした常設の学習展示をとおして、大人から子どもまで下水道に触れる機会をつくり、下水道が生活に欠かせないライフラインであることを知っていただき、下水道事業への理解を深めてもらうことを目的としています。

②技術開発

本市開発技術やニーズの情報発信と新たな技術開発につなげるための産学公の技術交流の場とします。

③海外展開

海外の水環境問題に対する本市の取組みの発信や官民連携による支援活動につなげるための海外ニーズとシーズの交流の場とします。

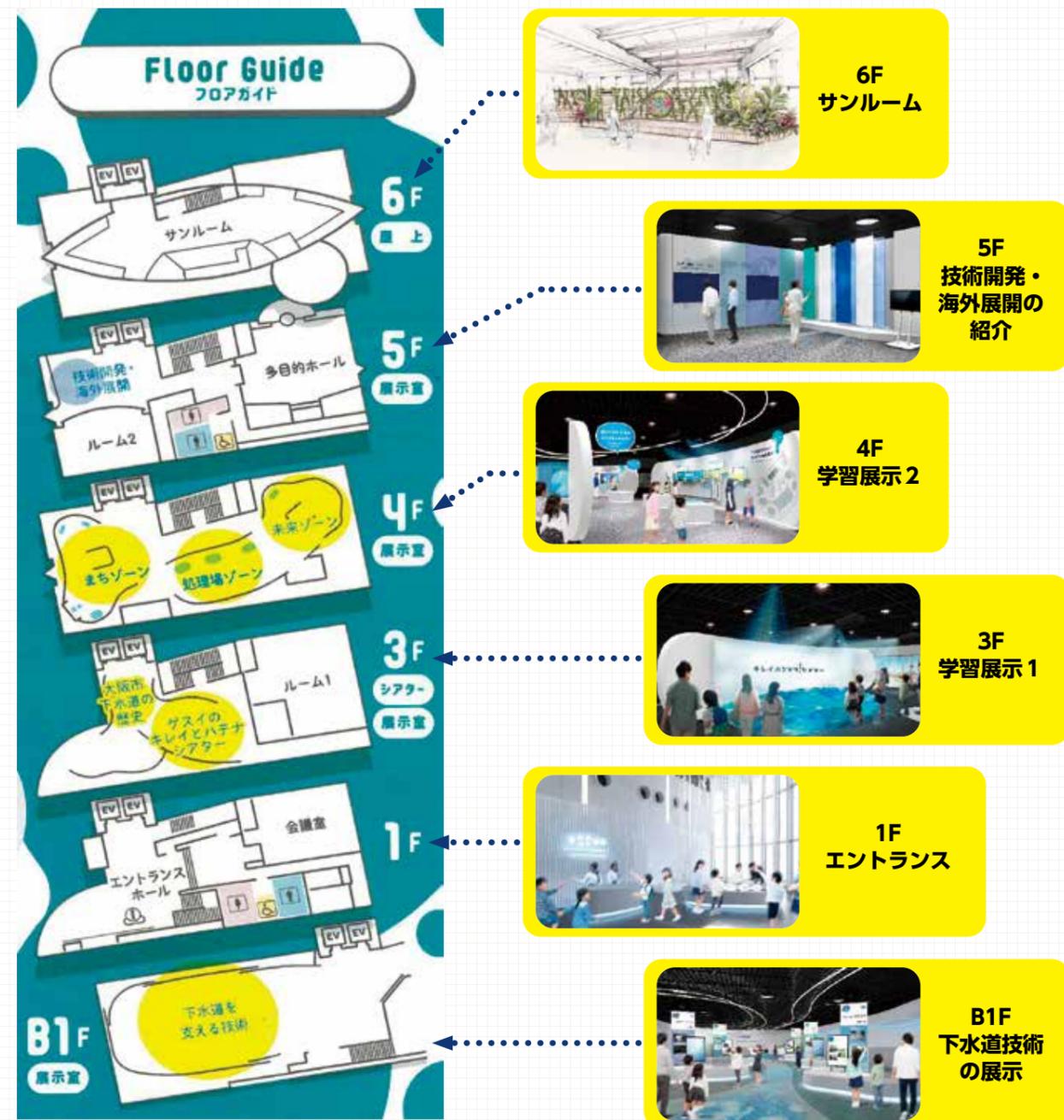
各フロアの構成

	フロア構成	内 容
6F	レストスペース	休憩所
5F	技術開発・海外展開の紹介、多目的ホール	本市の海外展開および本市の開発技術を紹介
4F	学習展示2	下水道の役割、仕組みを理解してもらうための体験型展示
3F	学習展示1	4階のメイン展示につながる導入展示
1F	エントランス、会議室	エントランス
BF	下水道技術の展示	下水道技術の紹介

開館時間 | 午前9時30分から午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 | 毎週水曜日(水曜日が休日の場合は翌日)および年末年始

入館料 | 無料



OWESAからのお知らせ

大阪市下水道科学館が令和4年4月1日（金）にリニューアルオープンし、「学習・研修」「技術開発」「海外展開」の「3つの機能」を持つ下水道に関する情報発信拠点として生まれ変わります。

OWESA（※）では5階の「技術開発・海外展開」フロアの大型ディスプレイを活用し、OWESA活動の内容をわかりやすく紹介する動画を提供しました。内容は水道技術、下水道技術、廃棄物処理技術、官民連携、国際貢献、海外展開等で構成されたもので、タッチパネルによる選択でご覧になりたいムービーを直接ご覧いただくことができます。また、外国からのお客様に向けて英語ナレーションのバージョンも用意しています。ご来場の上、ご視聴をお願いします。

「3つの機能」のうち「海外展開」について、大阪市下水道科学館は「海外の水環境問題に対する、本市の海外展開の取組の発信や官民連携による支援活動につなげるための海外ニーズとシーズの交流の場」とすることとなり、OWESAもニーズ・シーズの交流の場として活用する予定です。

※「大阪水・環境ソリューション機構（OWESA：Osaka Water & Environment Solutions Association）」。大阪市・大阪府・関西経済界・国際協力機関で構成している。

問い合わせ先 | 大阪市建設局下水道部調整課（水環境担当）TEL 06-6615-7674

WEB視聴での参加も多数

令和3年度下水道技術講習会を開催しました!



大阪府内全市町村の下水道事業に携わる職員を対象とした講習会を開催しました。

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け残念ながら講習会を中止しました。

本年度は第5波の緊急事態宣言が9月末に解除されたことにより開催の準備を進め、不測の事態も想定し、会場での講習参加とWEB視聴を合わせたハイブリッド方式で開催することとしました。年末から1月にかけてオミクロン株が猛威を振るい、一時は開催が危ぶまれましたが、何とかやり遂げることができました。

全国各地で発生している気象災害における雨天時侵入水対策が急務となっております。そこで、下水道法の改正に関連した浸水対策の取り組み等について国土交通省水管理・国土保全局より、大阪府流域下水道における浸水想定区域図の作成について大阪府下水道室より講演をしていただきました。

また、下水道におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)の取り組みとして下水道台帳管理システム標準仕様案の改定について一般社団法人下水道管路データバンク(GPD)より講演をしていただきました。

日時 令和4年2月9日(水) 13時30分～16時30分

場所 エル・おおさか(大阪府立労働センター)
大阪市中央区北浜東3丁目14番

講演者 下水道における都市浸水対策等について
国土交通省 水管理・国土保全局 下水道企画課
環境技術係長 金井容秀氏
大阪府流域下水道における想定最大規模降雨を用いた
浸水想定区域図の作成について
大阪府 都市整備部 下水道室 主査 豊川巖氏
下水道におけるDXの取り組み
下水道台帳管理システム標準仕様(案)の改定
一般社団法人 下水道管路データバンク 広報・普及委員 田中俊介氏

参加者 大阪府及び府内30市町村の職員
62人(対面20人、WEB42人)



一般財団法人都市技術センター
永井理事長の開会あいさつ



講演の様子



WEB視聴用の配信画面



大阪府下水道室坂田室長の開会あいさつ

Mer Vol.32の作成に取材協力・写真提供をいただき、ありがとうございました。

- ▶ 清流紀行 八幡市観光協会
- ▶ ガイアの瞳 日本コウトリの会
- ▶ 水人之交 雨ふる大地の水辺保全ネットワーク
- ▶ 府内の下水道情報 大阪市建設局下水道部調整課(下水道管理担当)